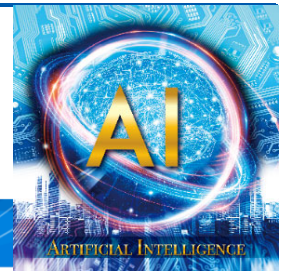




グローバルA Iファンド  
 グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり）  
 グローバルA Iファンド（予想分配金提示型）  
 グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり予想分配金提示型）



## テレワークや巣ごもり消費関連銘柄に注目

平素より「グローバルA Iファンドシリーズ\*」（以下、当シリーズ）をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。本資料では当シリーズの実質的な運用を担当するアリアンツ・グローバル・インベスターズU.S.LLC（以下、アリアンツGI）からの情報を基に、新型コロナウイルス感染拡大の影響により広がるテレワークや巣ごもり消費により需要の拡大が期待される銘柄などについてご紹介いたします。

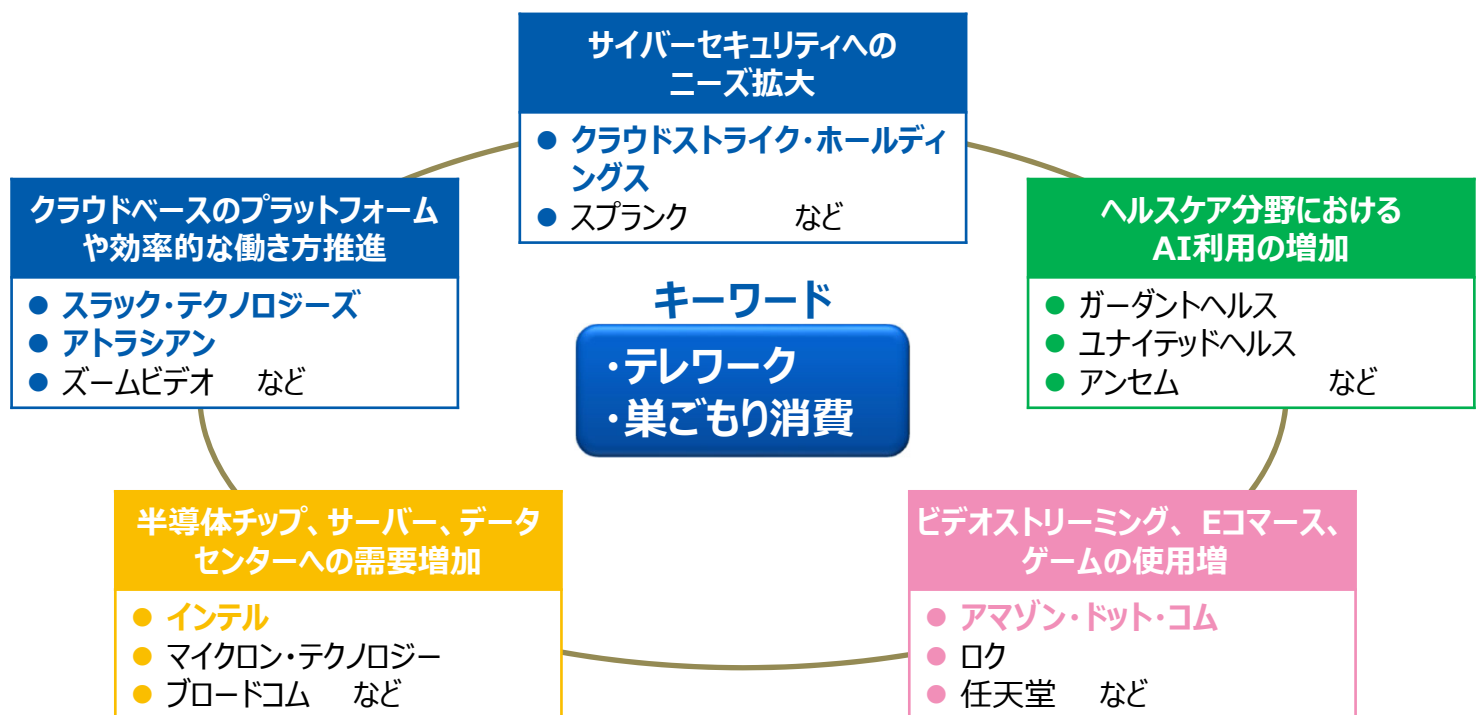
\*「グローバルA Iファンドシリーズ」とは、同じマザーファンドに投資を行う「グローバルA Iファンド」、「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり）」、「グローバルA Iファンド（予想分配金提示型）」、「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり予想分配金提示型）」の4ファンドの総称です。

※以下、「グローバルA Iファンド」を（為替ヘッジなし）、「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり）」を（為替ヘッジあり）、「グローバルA Iファンド（予想分配金提示型）」を（為替ヘッジなし予想分配金提示型）、「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり予想分配金提示型）」を（為替ヘッジあり予想分配金提示型）ということがあります。

### AI関連株式にはテレワークや巣ごもり消費の増加に伴う需要の拡大が期待される銘柄が多数

- 新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限などにより、消費やワークスタイルの変革が求められています。
- 企業では「テレワーク」の導入が進み、自宅にとどまる人による、いわゆる「巣ごもり消費」ニーズも急速に高まっています。こうした変化は、感染拡大収束後もトレンドとして継続していくと考えます。
- これらの変革の推進にはAIの活用が不可欠であり、AI関連株式にはテレワークや巣ごもり消費の増加に伴う需要の拡大が期待される銘柄が多数存在します。

#### <消費やワークスタイルの変革により注目されるテーマとAI関連銘柄の例>



- テレワークや巣ごもり消費の増加に対応するソフトウェア／ハードウェア企業に注目。
- これらのソフトウェア／ハードウェアを動かすために不可欠な半導体セクターにも注目。

（出所）アリアンツGI

※個別銘柄に言及していますが、例示を目的とするものであり、当該銘柄に投資するとは限りません。また、当該銘柄を推奨するものではありません。

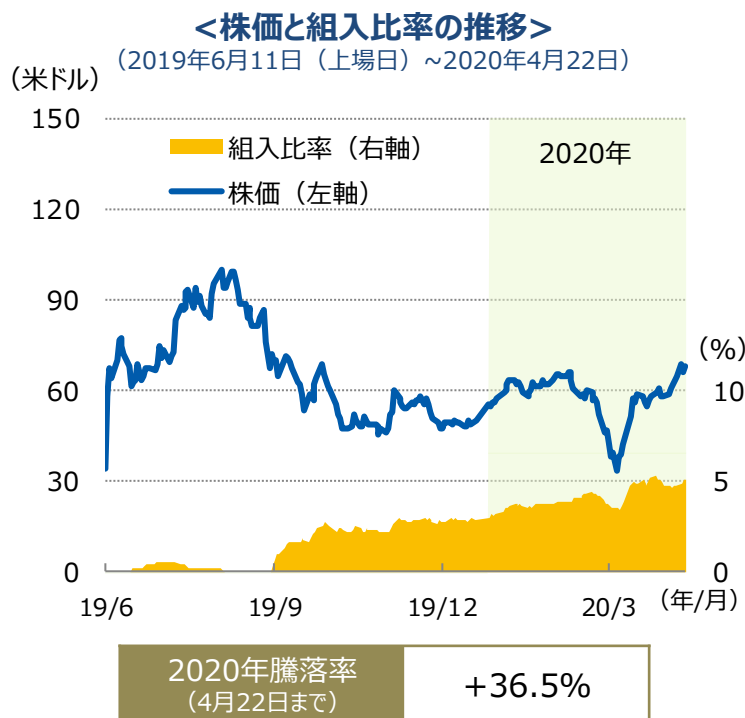
## 注目銘柄

- テレワークや巣ごもり消費の増加に伴う需要の拡大が期待される銘柄をご紹介します。

## クラウドストライク・ホールディングス

|       |       |
|-------|-------|
| キーワード | テレワーク |
| 業種    | 情報技術  |
| 組入比率  | 5.1%  |

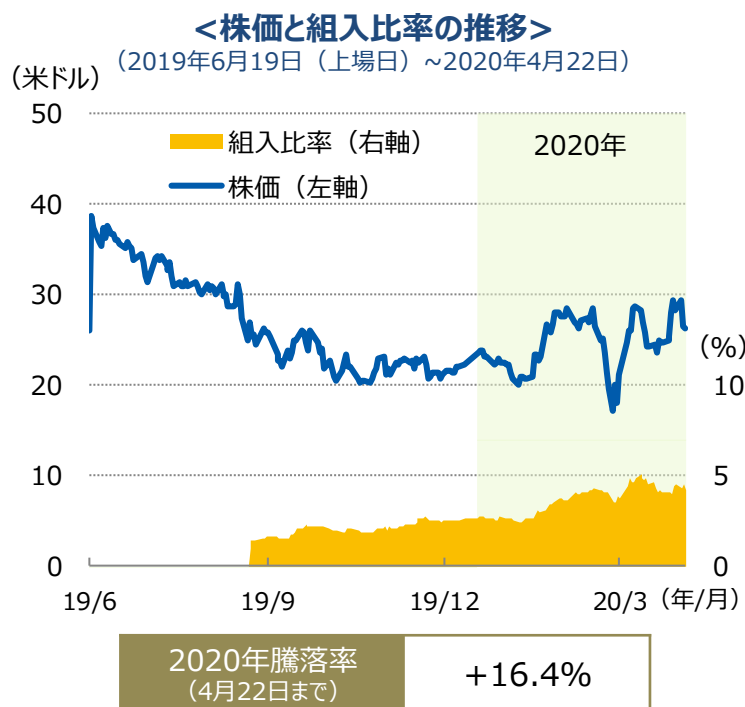
- クラウド・ベースのエンドポイント（パソコンやサーバー、スマートフォンなど、ネットワークに接続された端末）のセキュリティ・プラットフォームを提供しています。最先端の技術、ソリューションにより、巧妙・複雑化するサイバー攻撃に対処しています。
- サイバー攻撃はマクロ環境、景気状況にかかわらず増加しており、また新型コロナウイルス感染拡大によるテレワークのリモートアクセスが増えるなか、同社の最先端のセキュリティ・プラットフォームへの需要は拡大し続けています。



## スラック・テクノロジーズ

|       |       |
|-------|-------|
| キーワード | テレワーク |
| 業種    | 情報技術  |
| 組入比率  | 4.2%  |

- ビジネス・チャットのツールを提供するソフトウェア会社です。組織内のコラボレーション、コミュニケーションの円滑化、チーム・プロジェクトの管理などを目的としたコミュニケーション・プラットフォームを提供しています。
- 世界的にテレワークが大きく増えるなか、同社のプラットフォームの利用が急増しています。
- 今回の事態が収束に向かったとしても、テレワークやリモートアクセスの増加という流れは継続すると考えられるため、今後も高い成長が続くとみています。



(注1) 業種はGICS（世界産業分類基準）セクター分類。

(注2) 各銘柄の組入比率は2020年4月22日現在、マザーファンドの純資産総額を100%として算出。

(出所) Bloomberg、アリアンツGI

※上記は2020年4月22日現在におけるマザーファンドの保有銘柄であり、当該銘柄を今後も保有するとは限りません。また、当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、当シリーズの将来の運用成果および当該銘柄の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。見通しは今後、予告なく変更する場合があります。

## 注目銘柄

## アトラシアン

|       |       |
|-------|-------|
| キーワード | テレワーク |
| 業種    | 情報技術  |
| 組入比率  | 3.3%  |

- 組織におけるワークフロー管理、共有プラットフォームなど、コミュニケーションの円滑化や効率化を推進するアプリケーションを開発しています。
- 2020年3月、リモートワークを支援するため小規模企業や教育機関に対し同社の主力クラウド製品を無償で提供すると発表しました。
- 米国においてもテレワークが広がるなか、同社のアプリケーションの利用が拡大しており、今後も伸びていくことが期待されます。

## &lt;株価と組入比率の推移&gt;

(2018年12月末~2020年4月22日)



## アマゾン・ドット・コム

|       |              |
|-------|--------------|
| キーワード | 巣ごもり消費・テレワーク |
| 業種    | 一般消費財・サービス   |
| 組入比率  | 4.4%         |

- 米国最大手のオンライン小売業者であるアマゾン・ドット・コムは、広範な商品販売を世界各地で運営するほか、動画配信やクラウドサービスの提供なども行っています。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外出の頻度が減り、ネット通販の需要が拡大しています。
- また、在宅勤務、ストリーミング配信等の拡大によるクラウド需要が伸びることで、同社のクラウド事業 (AWS) への恩恵も大きいとみています。

## &lt;株価と組入比率の推移&gt;

(2018年12月末~2020年4月22日)



(注1) 業種はGICS (世界産業分類基準) セクター分類。

(注2) 各銘柄の組入比率は2020年4月22日現在、マザーファンドの純資産総額を100%として算出。

(出所) Bloomberg、アリアンツGI

※上記は2020年4月22日現在におけるマザーファンドの保有銘柄であり、当該銘柄を今後も保有するとは限りません。また、当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、当シリーズの将来の運用成果および当該銘柄の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。見通しは今後、予告なく変更する場合があります。

## 注目銘柄

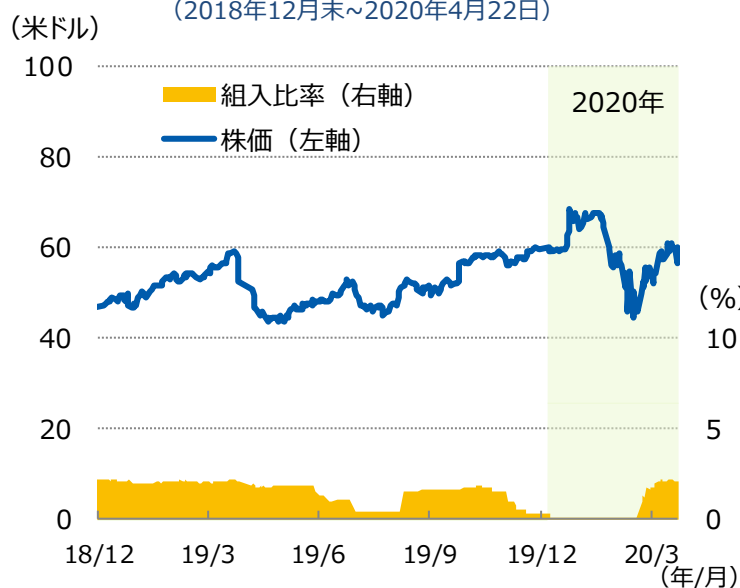
## インテル

|       |          |
|-------|----------|
| キーワード | 半導体需要の増加 |
| 業種    | 情報技術     |
| 組入比率  | 2.1%     |

- 世界最大手の半導体メーカーです。主にPC向け、データセンター向けの半導体を製造しています。
- 世界的にテレワークや巣ごもり消費が増えるなか、テレワーク環境を整備するためのPCやデータセンターの需要の伸びが見込まれます。
- 近年はAI関連企業の買収にも注力しており、2019年12月には、イスラエルのAIチップメーカー、ハバナラボス (Habana Labs) を約20億米ドルで買収しました。

## &lt;株価と組入比率の推移&gt;

(2018年12月末~2020年4月22日)

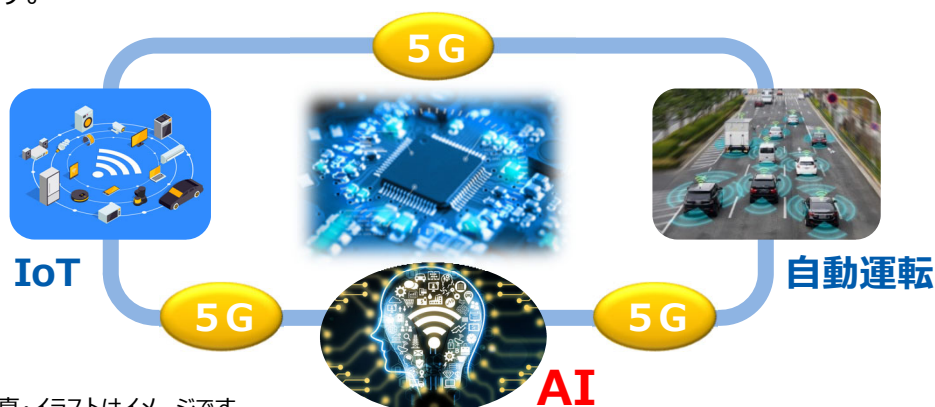


## ポイント

## 半導体銘柄について

## &lt;今後もAIを支える半導体産業に注目&gt;

- 半導体銘柄はシクリカル（景気敏感）銘柄であるため、当シリーズにおいては市場環境に応じて組入比率を機動的に調整していく方針です。
- 一方、中長期のAI業界を考えた場合、世界各国・地域でサービスが開始された5Gを活用してAIやIoT、自動運転などの技術や性能を向上させるためには半導体やIC（集積回路）のさらなる進化・改良が不可欠です。
- 半導体はAIを支える重要な産業であり、当シリーズでは今後も中長期的観点から半導体銘柄に注目していきます。



※写真・イラストはイメージです

5Gを活用してAIやIoT、自動運転などの技術や性能を向上させるために、**半導体やICのさらなる進化が不可欠。**

(注1) 業種はGICS（世界産業分類基準）セクター分類。

(注2) 各銘柄の組入比率は2020年4月22日現在、マザーファンドの純資産総額を100%として算出。

(出所) Bloomberg、アリアンツGI

※上記は2020年4月22日現在におけるマザーファンドの保有銘柄であり、当該銘柄を今後も保有するとは限りません。また、当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、当シリーズの将来の運用成果および当該銘柄の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。見直しは今後、予告なく変更する場合があります。

## グローバル株式の回復局面で好パフォーマンスが期待されるAI関連株式

- 当シリーズのうち（為替ヘッジなし）、（為替ヘッジあり）が設定された2016年9月以降、グローバル株式が大きく下落する局面では、当シリーズ（為替ヘッジなし）もグローバル株式とともに下落することもありました。
- ただし、技術革新力に優れるAI関連株式に投資する当シリーズ（為替ヘッジなし）は、過去の回復局面においては、グローバル株式を上回るパフォーマンスとなっています。
- 今回の局面では新型コロナウイルス感染拡大の影響により、AIが果たす役割の重要性が改めて認識されたことなどから、当シリーズ（為替ヘッジなし）はグローバル株式を上回る水準で値を戻しつつあり、魅力的な投資機会になるとみています。

### ＜当シリーズ（為替ヘッジなし）とグローバル株式（円ベース）の推移等＞



#### 米国長期金利急騰や米中貿易摩擦懸念台頭による下落局面 (2018年1月29日～3月24日)

当該期間の  
下落率 (%)

0.1  
グローバル  
株式  
(為替  
ヘッジなし)  
▲12.9

その後3か月間の  
上昇率 (%)

9.7 8.4  
(為替ヘッジなし) グローバル  
株式

#### 米中貿易摩擦激化による 下落局面 (2018年10月5日～12月25日)

当該期間の  
下落率 (%)

(為替ヘッジなし) グローバル  
株式  
▲23.8 ▲19.2

その後3か月間の  
上昇率 (%)

31.6 16.1  
(為替ヘッジなし) グローバル  
株式

#### 新型コロナウイルス 感染拡大の局面 (2020年2月24日～4月24日\*)

当該期間の  
下落率 (%)

(為替ヘッジなし) グローバル  
株式  
▲14.8 ▲21.2

その後3か月間の  
上昇率 (%)

?

\* 当資料作成時点までのデータを掲載したものであり、新型コロナウイルス感染拡大の局面が2020年4月24日で終了したと判断したものではありません。

(注1) (為替ヘッジなし)の推移と騰落率は、税引前分配金再投資基準価額(信託報酬控除後)より算出。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。また、その騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

(注2) グローバル株式はMSCI ACワールドインデックス(配当込み)。同インデックスは当シリーズのベンチマークではありません。

(注3) 当シリーズの基準価額算出時の外貨建て資産の円換算には、基準価額算出日前日(休日の場合はその直近の最終取引日)の株価と、基準価額算出日の為替レートを使用しています。そのため、上記グラフのグローバル株式についてはこの計算方法に沿って、基準価額算出日前日の指数値と、基準価額算出日の為替レートから円換算値を算出し指数化しています。

(出所) Bloomberg

※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、当シリーズの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。見通しは今後、予告なく変更する場合があります。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは11ページをご覧ください。

## (ご参考) 基準価額と分配金の推移

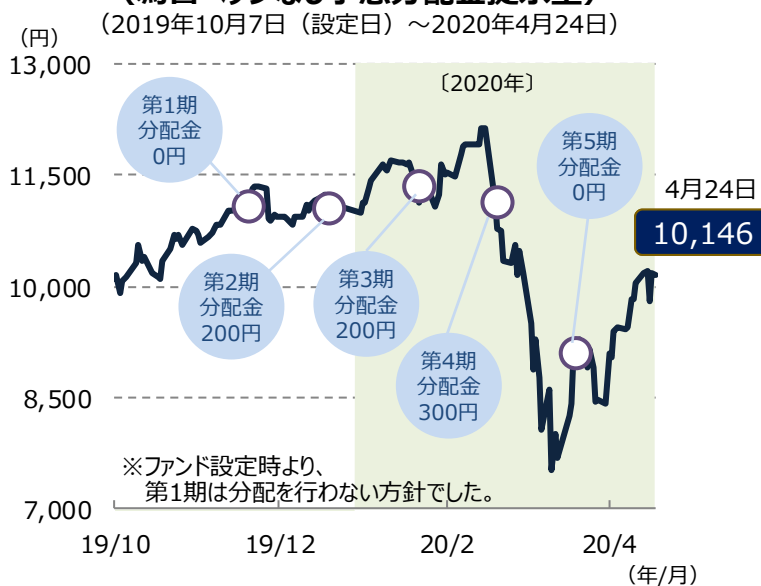
### (為替ヘッジなし)



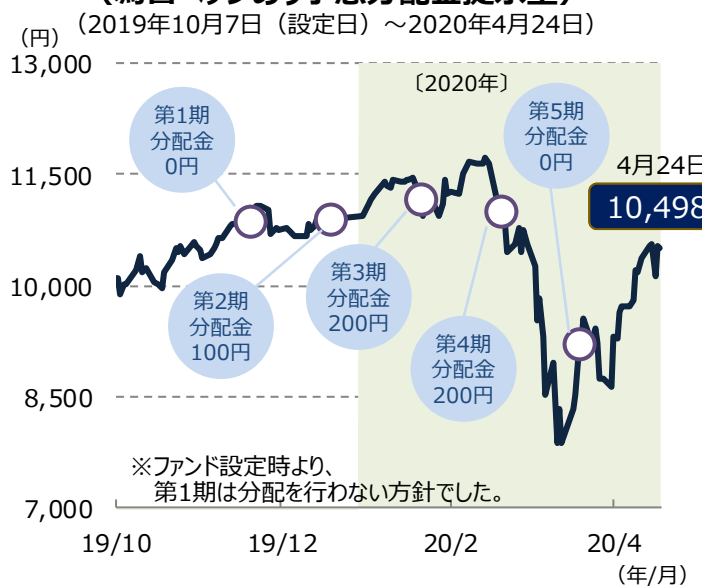
### (為替ヘッジあり)



### (為替ヘッジなし予想分配金提示型)



### (為替ヘッジあり予想分配金提示型)



(注) 基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後。分配金は1万口当たり、税引前。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果および分配を保証するものではありません。分配金額は委託会社が分配方針に基づき基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは11ページをご覧ください。

## ファンドの特色

※ 各ファンドの略称として、それぞれ以下のようにあります。

|                               |                     |
|-------------------------------|---------------------|
| グローバルAIファンド                   | : (為替ヘッジなし)         |
| グローバルAIファンド (為替ヘッジあり)         | : (為替ヘッジあり)         |
| グローバルAIファンド (予想分配金提示型)        | : (為替ヘッジなし予想分配金提示型) |
| グローバルAIファンド (為替ヘッジあり予想分配金提示型) | : (為替ヘッジあり予想分配金提示型) |

1. グローバルAIエクイティ・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、世界の上場株式\*の中から、AI（人工知能）の進化、応用により高い成長が期待される企業の株式に投資を行います。
  - AIテクノロジーの開発のほか、AIの開発に必要なコンピューティング技術、AIを活用したサービス、ソフトウェア・アプリケーションの提供を行う企業や、AIを活用したサービスを駆使して自社ビジネスを成長させる企業等に投資を行います。
  - AI（人工知能）とは、Artificial Intelligenceの略です。人間のように自ら学び発達していくコンピューター・プログラムをさします。
  - \* 上場株式には、不動産投資信託（REIT）も含まれます。
2. AIに関連する企業の投資戦略に強みをもつ、アリアンツ・グローバル・インベスターズU.S.LLCが実質的な運用を行います。
  - マザーファンドの運用にあたっては、アリアンツ・グローバル・インベスターズU.S.LLC（本社：米国カリフォルニア州サンフランシスコ）に運用の指図に関する権限の一部を委託します。同社は、ドイツのアリアンツ・グループ傘下の運用会社です。
3. 対円での為替ヘッジの有無により、（為替ヘッジなし） / （為替ヘッジあり） / （為替ヘッジなし予想分配金提示型） / （為替ヘッジあり予想分配金提示型）の4つのファンドからご選択いただけます。
  - （為替ヘッジなし）、（為替ヘッジなし予想分配金提示型）  
実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
  - （為替ヘッジあり）、（為替ヘッジあり予想分配金提示型）  
実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。  
※一部の通貨については、他の通貨を用いた為替ヘッジを行う場合があります。直物為替先渡取引（NDF）を利用することもあります。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
4. （為替ヘッジなし予想分配金提示型）、（為替ヘッジあり予想分配金提示型）は、毎月の決算時に分配方針に基づき分配を行います。
  - 原則として、毎月25日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、分配方針に基づき分配を行います。
  - 各計算期末の前営業日の基準価額（支払済み分配金（1万口当たり、税引前）累計額は加算しません。）に応じて、原則として、以下の金額の分配を目指します。

| 各計算期末の前営業日の基準価額    | 分配金額（1万口当たり、税引前） |
|--------------------|------------------|
| 11,000円未満          | 基準価額の水準等を勘案して決定  |
| 11,000円以上12,000円未満 | 200円             |
| 12,000円以上13,000円未満 | 300円             |
| 13,000円以上14,000円未満 | 400円             |
| 14,000円以上          | 500円             |

※ 分配対象額が少額な場合、各計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行わないことがあります。

<ご留意いただきたい事項>

- 基準価額に応じて、毎月の分配金額は変動します。
- 基準価額があらかじめ決められた水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。
- 分配を行うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期決算以降の分配金額は変動する場合があります。
- あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## 投資リスク

## 基準価額の変動要因

ファンドは、主に内外の株式を投資対象としています（マザーファンドを通じて間接的に投資する場合を含みます。）。ファンドの基準価額は、組み入れた株式の値動き、当該発行者の経営・財務状況の変化、為替相場の変動等の影響により上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、ファンドは預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。ファンドの主要なリスクは、以下の通りです。

## ■ 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

## ■ 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

## ■ 為替変動リスク

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほか、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

（為替ヘッジあり）、（為替ヘッジあり予想分配金提示型）については、実質外貨建資産に対し原則として対円で為替ヘッジを行うため、為替の変動による影響は限定的と考えられます（ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。）。なお、一部の実質外貨建資産の通貨に対し他の通貨による為替ヘッジを行う場合があります。その際、通貨間の値動きが異なる場合には十分な為替ヘッジの効果が得られないことや円と他の通貨との為替変動の影響を受けることがあります。

## ■ カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

## ■ 市場流動性リスク

ファンドの資金流入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

## その他の留意点

- ファンドは、特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、株式市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定の業種・テーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該業種・テーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。
- （為替ヘッジあり）、（為替ヘッジあり予想分配金提示型）で為替取引を行う場合、直物為替先渡取引（NDF）を利用する場合があります。NDFの取引価格は、需給や当該通貨に対する期待等の影響により、金利差から理論上期待される水準とは大きく異なる場合があります。したがって、実際の為替市場や金利市場の動向から想定される動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、当該取引において、取引先リスク（取引の相手方の倒産等により取引が実行されないこと）が生じる可能性があります。
- ファンドが活用する店頭デリバティブ取引（NDF）を行うために担保または証拠金として現金等の差入れがさらに必要となる場合があります。その場合、ファンドは追加的に現金等を保有するため、ファンドが実質的な投資対象とする資産等の組入比率が低下することがあります。その結果として、高位に組み入れた場合に比べて期待される投資効果が得られず、運用成果が劣化する可能性があります。
- 投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。



## 分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

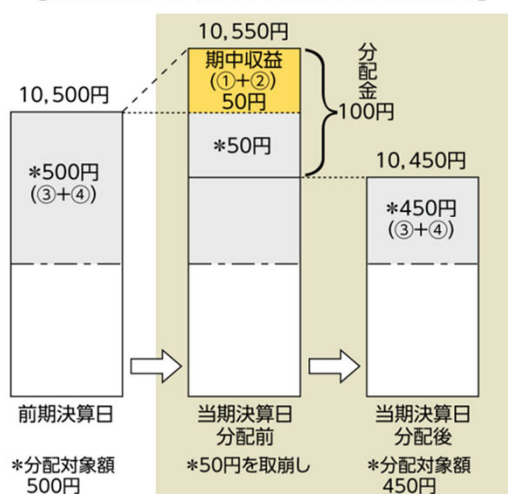
ファンドで分配金が  
支払われるイメージ



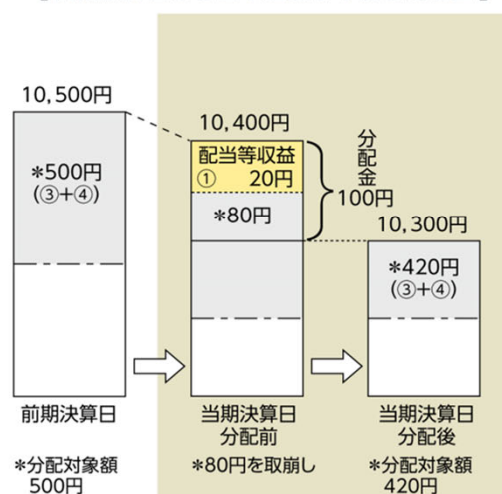
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

(計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

[ 前期決算日から基準価額が上昇した場合 ]



[ 前期決算日から基準価額が下落した場合 ]



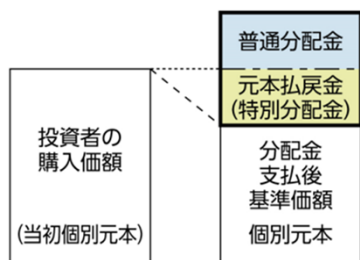
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※ 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

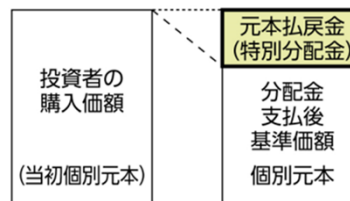
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

[ 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合 ]



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

[ 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合 ]



普通分配金：個別元本（投資者のファンド購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

## お申込みメモ

## 購入単位

販売会社または委託会社にお問い合わせください。

## 購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

## 購入代金

販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

## 換金単位

販売会社または委託会社にお問い合わせください。

## 換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

## 換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目以降にお支払いします。

## 信託期間

(為替ヘッジなし)

2016年9月9日から2026年9月25日まで

(為替ヘッジあり)

2017年2月10日から2026年9月25日まで

(為替ヘッジなし予想分配金提示型) (為替ヘッジあり予想分配金提示型)

2019年10月7日から2026年9月25日まで

## 決算日

(為替ヘッジなし) (為替ヘッジあり)

年1回(毎年9月25日。休業日の場合は翌営業日)

(為替ヘッジなし予想分配金提示型) (為替ヘッジあり予想分配金提示型)

毎月25日(休業日の場合は翌営業日)

## 収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

## 課税関係

課税上は株式投資信託として取り扱われます。

配当控除の適用はありません。

## お申込不可日

ニューヨークの取引所またはニューヨークの銀行の休業日のいずれかに当たる場合には、購入、換金の申込みを受け付けません。

## スイッチング

販売会社によっては、以下のファンドの間でスイッチングを取り扱う場合があります。

- (為替ヘッジなし)
- (為替ヘッジあり)
- (為替ヘッジなし予想分配金提示型)
- (為替ヘッジあり予想分配金提示型)

※(為替ヘッジなし)、(為替ヘッジあり)、(為替ヘッジなし予想分配金提示型)、(為替ヘッジあり予想分配金提示型)については、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。また、販売会社によっては一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料  
購入価額に3.30% (税抜き3.00%) を上限として、販売会社がそれぞれ別に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額  
ありません。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）  
ファンドの純資産総額に年1.925% (税抜き1.75%)の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料  
上記のほか、ファンドの監査費用や有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）が信託財産から支払われます。これらの費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用状況により変化するため、あらかじめ、その金額等を具体的に記載することはできません。
- ※ ファンドの費用（手数料等）の合計額、その上限額、計算方法等は、投資者の保有期間に応じて異なる等の理由により、あらかじめ具体的に記載することはできません。

## 税金

### 分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

### 換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## 委託会社・その他の関係法人等

|        |  |
|--------|--|
| 委託会社   | ファンドの運用の指図等を行います。<br>三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号<br>加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、<br>一般社団法人第二種金融商品取引業協会<br>ホームページ： <a href="https://www.smd-am.co.jp">https://www.smd-am.co.jp</a><br>フリーダイヤル： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く） |
| 受託会社   | ファンドの財産の保管および管理等を行います。<br>株式会社りそな銀行  |
| 販売会社   | ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。   |
| 投資顧問会社 | マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、投資信託財産の運用を行います。<br>アリアンツ・グローバル・インベスターズU.S.LLC  |

## 販売会社

| 販売会社名           | 登録番号                      | 日本証券業協会 | 一般社団法人<br>金融商品取引業協会 | 日本一般社団法人<br>投資顧問業協会 | 金融先物取引業協会 | 一般社団法人<br>投資信託協会 | 備考 |
|-----------------|---------------------------|---------|---------------------|---------------------|-----------|------------------|----|
| auカブコム証券株式会社    | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号   | ○       |                     |                     | ○         | ※1               |    |
| SMB C日興証券株式会社   | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号 | ○       | ○                   | ○                   | ○         |                  |    |
| 株式会社SBI証券       | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号   | ○       | ○                   |                     | ○         |                  |    |
| スター証券株式会社       | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第99号   | ○       |                     |                     |           |                  |    |
| 東洋証券株式会社        | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第121号  | ○       | ○                   |                     |           |                  |    |
| 西日本シティT T証券株式会社 | 金融商品取引業者 福岡財務支局長（金商）第75号  | ○       |                     |                     |           |                  |    |
| 松井証券株式会社        | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号  | ○       |                     |                     | ○         |                  |    |
| 水戸証券株式会社        | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第181号  | ○       |                     | ○                   |           |                  |    |
| 楽天証券株式会社        | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号  | ○       | ○                   | ○                   | ○         |                  |    |

## 備考欄について

※1：「グローバルAIファンド（予想分配金提示型）」のみのお取扱いとなります。

## 「モーニングスターアワード・ファンド オブ ザ イヤー 2018」について

「グローバルAIファンド（為替ヘッジあり）」は、2019年2月1日に発表された「モーニングスターアワード・ファンド オブ ザ イヤー 2018」において、優秀ファンド賞（国際株式型（グローバル・含む日本）部門）を受賞いたしました。当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2018年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国際株式型（グローバル・含む日本）部門は、2018年12月末において当該部門に属するファンド340本の中から選考されました。

Morningstar Award“ Fund of the Year 2018”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

## 重要な注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。
- 当資料に評価機関等の評価が掲載される場合、当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

作成基準日：2020年4月24日